

令和5年度 第17回「一木地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年9月30日（土） 10：00～11：00

場 所：一木公民館

参加団体等：一木地区振興協議会、一木壮年会、一木体育協会、一木子ども会、
一木社会福祉協議会、いちき福祉会、北消防団 一城分団、一木地区各
町内会長、市長会連合会理事、公民館長など

発言【1】

(1) こども家庭庁の発足に伴う様々な改革の中の一つに、1歳児を担当する保育士の配置基準について見直しがあると聞いている。「園児6人に保育士1人の現状を、園児5人に保育士1人」となるが、1歳児の配置基準については、白山市は手厚い保護により「園児4人に保育士1人」の定数改善が行われている。

国基準の見直しが実現すれば、白山市の保育予算1人分を新たな施策に取り組む費用に計上できることになる。新たな施策として、4歳児5歳児の保育配置基準の定数改善を提案する。

(2) 県道八日市・松任線の中村から8号線宮丸交差点までの区間の拡幅工事と、米永から国道8号線へ至る県道交差点の信号設置と、更に県道から、あかねこども園へ右折する右折線の設置をお願いしたい。

【市】

(1) 1歳児に対する国の基準は園児6人に1人の先生ですが、白山市は独自で4人に1人の先生を配置し、市の財源を持ち出して使っています。国の基準が5人に1人になることが、国から入ってくる大枠の予算の中で正式に決まったら検討が必要かと思えます。予算の範囲内で、優先順位を考慮しながら検討していく事になります。

(2) 信号機の設置については公安委員会が管轄で、既設の国道8号からの距離が短いため、設置は難しいと伺っております。

また、あかねこども園のための右折車線の設置には用地の確保と交通量に応じて検討が必要であります。県の事業の進捗に合わせて働きかけたいと思います。

発言【2】

高齢者の一人暮らしが増えていくと思う。身寄りのない高齢者の対応につい

て民生委員と連携強化をお願いしたい。私の叔父は独り身の認知症で、車を廃車処分したにもかかわらず、運転免許の更新をすと言い出し、警察と民生委員、包括センターにも相談した。個人の意思を尊重せざるを得ないと思うが、はっきりと言える方法がないか。

【市】

民生委員による一人暮らしや高齢者のみ世帯の実態把握を年1回、実施しております。介護や医療、認知症、介護予防、生活支援等様々な面から、高齢者やその家族を支える身近な相談窓口として、地域包括支援センターを設置しています。必要な方に必要なサービスが提供できるよう地域包括支援センターと連携を図っています。

なお、高齢者一人暮らしで、緊急時の対応に不安がある方には、緊急通報装置の設置により安否確認や救急車の手配などが可能となっています。

また、認知症等により判断能力が低下し、税金の支払いなどの財産管理や福祉サービスの利用契約ができなくなった場合に備えて、成年後見制度の利用や社会福祉協議会の福祉サービス利用支援事業の活用を推奨しています。

発言【3】

- (1) DXの推進として今年度予算に1,700万円程見込まれており、職員研修などの人材育成や行政サービスの向上に充てると記載されているが、市としてどのようなことにデジタルを使うのか。
- (2) 将来的なデジタルサービスは何か。生産者人口を増やしていくという意味ではデジタルの部分は大切だと思うので、すべての事業においてデジタルの視点を持つてば良いと思う。

【市】

- (1) 国からは、電子申請や書かない窓口等、住民の方の各種申請手続きの負荷が軽減する事例の紹介がされています。

本市でも、これらの事例に沿って、電子申請や書かない窓口（こども子育て課、いきいき健康課）の導入を実施しており、対応手続きを順次増やしていく予定です。

- (2) 全国で多くの実証実験がなされていますが、実証実験後に採算性を含めて自走できる事例は限定的であると認識しています。

労働生産性の向上という点でデジタル化の視点は重要な要素です。デジタルを活用することで、採算性を含めた持続可能な事業の創出ができないか、市民

の皆様の協力を得ながら検討してまいります。

発言【４】

白山総合車両所の設置に対し、この地域が一番協力したことだと思う。米永町や宮丸町から西松任駅へ自転車や徒歩で行きにくいので、車両所周辺の歩道整備ができないか。

【市】

車両所周辺については既設道路が山側に整備されておりますので、そちらを利用していただきたいと考えております。危険な箇所があれば、対策を検討していきたいと思えます。

発言【５】

- (1) 安心安全な有機食材を使った給食に取り組んでほしい。
- (2) 一木地区は世代によって学校が変わった地区である。現在は地区全体が、同じ小学校に通える状況になっているが、松任小学校の校区が広いので地域と連動していない。この地区には、あかねこども園と恵愛こども園以外の教育機関が無い。児童館などの教育機関をつくり子どもが地域に目を向けるようになってほしい。

【市】

- (1) 有機食材のみを使用することは、多くの量を確保できないため現状は困難ですが、これまでも低農薬野菜の使用はしております。今年度は新たな取り組みとして、市内の小中学校で11月29日から30日に特別栽培米の認証を受けた米を給食で提供しました。
- (2) 松任市の時に一木地区では蕪城小学校に通学する地域と、国道を挟んで松南小学校へ通学する地域がありましたが、一つの校区になるよう考え、スクールバス等を新たに準備し、一つのまとまった松任小学校区として理解していただきました。一木地区はこれまで何度か校区の変更があり、大変苦労して来られたと思えます。

児童館の建設は困難ではありますが、子どもと地域の関わりについては、近年「地域の子どもは学校を含めた地域で育てる」という気運が高まっており、今年度全小学校でコミュニティスクールを導入しました。

新しく教育機関をつくるわけではありませんが、地域に開かれた学校運営により、地域の方々がこれまで以上に学校に関わることとなり、子どももより地

域に目を向け、地域の一体感の醸成にもつながると考えています。今後も皆様のご意見等を参考に各種施策を進めていく中で児童の育成に努めて参ります。

発言【6】

公民館の改築計画について、第2次の改築計画で昭和57年以降の新耐震基準で造られた公民館も順番にされていくようにと聞いた。一木公民館は平成元年に建てたが、クラックが多く非常に危ない建物だ。クラックができると、鉄筋コンクリートの建物なので、雨漏りで雨が入り鉄筋コンクリート腐食する。この建物の耐震性ではなく、先ず耐力度があるかどうかを調べて、耐力がないのなら改築の順番を先にもってきて欲しい。次の計画を作って調べて欲しい。

【市】

旧耐震基準の公民館について現在改築をして、整備しているところです。新耐震基準の公民館については、旧耐震基準の公民館の整備を終えた後、改修・改築を順次検討してまいります。